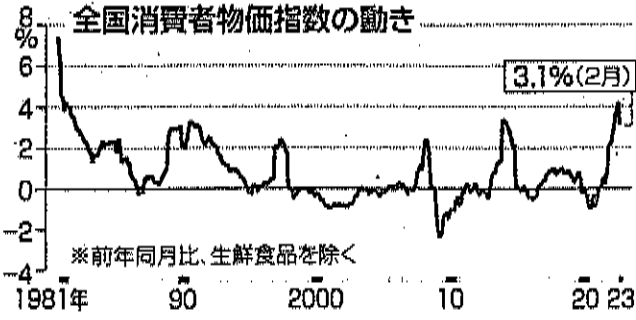


2月全国物価3.1%上昇

電気代抑制策で伸び鈍化

総務省が24日発表した2月の全国消費者物価指数(2020年=100、生鮮食品を除く)は前年同月



比3.1%上昇の103.6となり、13カ月ぶりに伸びが縮小した。政府の電気・都市ガス料金の負担軽減策による押し下げ効果が1割程度あり、前月の4.2%上昇から大きく下がった。ただ抑制策がなければ、単純計算で前月に匹敵する高水準だった。

食料品は7.8%上昇と、46年7カ月ぶりの高い上昇率を記録。資源高と円安に伴う輸入価格の高騰で、調理食品や菓子類など幅広い品目で値上げの波が止まらず、家計の重荷となっている。

生鮮食品とエネルギーを

除く指数は3.5%上昇となり、引き続き高い水準だった。

エネルギーは0.7%低下し、前月の14.6%上昇から大きく下がった。このうち電気代は5.5%低下。都市ガス代は16.6%上昇で、前月の35.2%上昇から伸びが鈍化した。

外食は大手チェーンで値上げが相次ぎ6.4%上昇となった。鳥インフルエンザの感染拡大による供給減少や飼料代の高騰で価格が上昇している鶏卵などの乳卵類は11.7%上がった。

総務省の担当者は「3月と4月にも加工品を中心に値上げが予定されており、上昇幅はしばらく高い水準が見込まれる」と説明した。

電気冷蔵庫など家庭用耐

久財は11.2%上昇した。新製品の発売があった携帯電話機など通信も7.6%上がった。